

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立梅若小学校
校長名	安藤 芳典

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
○同一学年正答率 昨年比較) 国語 3～12.5%上昇 算数 3～17.8% 社会 10～40% 理科 0.6～26% 英語 全国平均以上 特に国語の作文は全学年全国・墨田区平均以上、区内トップクラスとなった。 ○同一児童標準スコア昨年比較) 国語 2.3～2.9P 上昇 算数 2.1～4.3P 社会 1.3P 程度 理科 横ばい ◎添付資料参照 どの学年、どの教科でも D,E 層が減少して C 層が増えたり、C 層が減少して A,B 層が増えたりしている。学力層の上位移行が多いことが今回の特徴である。これらのことから、教員の日々のご指導が効果を上げたこと、授業力が高いことの証である。この子供たちをなんとかしたいという熱意が成果を上げている。 忘却の激しい子供たちに対して、梅若メソッド 3 日、3 週間、3 か月後の復習が忘却の質的・量的対応に成果を上げ、定着を生んでいる。 日常的、習慣的な作文指導が著しい成果を上げた。 復習問題を徹底的に取り組むことが効果を上げる。長年の努力が実を結んだ、諦めずに続けることが結果を生む。困難校であっても学力は伸びるし、伸ばしたいと思っている子供がいる、伸びない子はいない。この学校には学力ではなくて、生活指導が必要だという考えは、言い訳に過ぎないことが証明された。 本校は基礎基本の徹底を図り、各学年各教科とも目標値を同等もしくは上回る結果が出た。このことから基礎基本の知識や技能を身につけると活用の力も向上することが分かった。	【国語科】 ・3 年生 漢字の読み書きに課題がある。 ・4, 5 年生 漢字の読み書きに課題がある。物語文の心情読み取りが十分ではない。 ・6 年生 漢字の書き取り、報告文の作成、物語文の読み取りに課題がある。 【算数科】 ・2 年生 文章問題と大きな数の問題が全国同等か以下であった。 ・3 年生 3～4 けたの加減算の基礎的技能が十分定着していない。また、測量単元も目盛りと単位の関係が理解されていない。 ・4 年生 思考と理由の記述ができていない。 ・5 年生 図形の性質や作図に課題がある。 ・6 年生 分数や小数の知識や計算、図形技能が十分身につけていない。 【社会科】 ・4, 5 年生 資料の読み取りが不十分で根拠のない解答が見られる。 ・6 年生 情報と自然環境の単元で基礎理解が不十分である。 【理科】 ・4 年生 化学や物理分野に課題がある。 ・5 年生 星と月、水や金属の体積について十分な知識を習得していない。 ・6 年生 授業と違った聞かれ方をすると戸惑ってしまうことが多い。 全学年において漢字の習熟に課題がある。一気学習を行っているが、成果が現れていない。粘り強い反復練習を家庭学習含めて行っていく必要がある。書くことの課題は克服されつつある。 今後の課題は読解力の向上と想像力の向上である。そのために読書指導に力を入れなければならない。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ネット利用やゲーム、SNS 利用と学力の相関関係は薄い。 ・自己肯定感は各学年とも比較的高く、全国平均を超えている。学年進行による違いはない。自己肯定感と学力の相関関係は見られない。 ・いじめに関する多くの設問では、95%以上の児童が否定的な回答をしており、学力層における相関関係は認知出来ない。	・予習復習や家庭学習は各学年とも総じて低い。10～25%が行わない。 ・家庭で勉強を見てもらえる割合が 55～30%である。 ・読書を全くしない割合が 15～25%程度ある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 梅若学習メソッド

1. 333復習(3日、3週間、3か月スパン)による基礎基本の徹底定着と忘却率を緩やかにする。
 - ① 3日以内の忘却防止 授業内復習、授業内練習、朝学習
 - ② 3週間以内の忘却防止 梅若タイム、家庭学習、宿題、朝学習、AI 徹底復習と練習
 - ③ 3か月以内の忘却防止 振り返り期間、補習教室、九九道場、梅若タイム、類似問題振り返りシートやデータベースを活用した復習の定着促進。全学年全教科
2. 週3回朝学習の設定、社会科・理科の復習を行う。
3. 「復習+授業+練習」の授業形式でアウトプットを徹底して定着率を上げる。
4. 1～3月を徹底復習期間として、振り返りシートや類似問題で想起と定着を図る。
5. 隔週木曜日に復習時間、梅若タイムを設定する。
6. ふりかえり期間 7月、9～10月、12月、1月～4月(授業後の練習問題や朝学習、宿題)。
7. 類似問題の取組 毎週2回以上朝学習や家庭学習で行う。(1～4月)
8. 漢字の一気学習を前期7月、後期1月までに終え、以降反復練習によって定着率を向上させる。
9. 未習熟者対象の九九道場と筆算道場の設置(毎日休み時間2回)2, 3年生対象
10. 社会科・理科の毎単元総復習の徹底、練習問題の徹底。
11. ターゲット補習学習 チャレンジスクール(3年生)木曜日、補習教室(D,E 層)火曜日 希望制からターゲット指名制とする。
11. 5, 6年生の算数指導を4展開とする。(D,E 層を対象に管理職が行う。)
12. 作文学習 1～2年生 100字、3～6年生 200字 毎週末の宿題として全員が取り組む。

(2) 梅若授業改善メソッド

1. 梅若スタイルの設定 指導過程のモデル化の定着
 2. 校長による課題解決学習法の模範授業研修会(各学級1回以上)を年間12回以上行う。また、副校長による道徳科の模範授業を年間12回以上行う。
 3. 若手授業検討会(5人×3回 時間外 OFF JT、自由参加)
 4. 年度内学習効果の効果測定を行う。(国語、算数1月)
- ### 3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・各学年各教科とも各学力層の3%を上位移行させる。
- ・各学年各教科とも平均正答率の3%以上向上
- ・各教科の基礎分野の平均正答率を全国平均に近づける。
- ・児童アンケートによって授業が楽しいと答える児童を80%以上にする。算数の授業が分かれると答える児童を85%以上とする。(1月まで)
- ・同一集団の成長過程において、全学年が令和7年度比で向上させる。